

## **宮城野区高砂第三地区民生委員児童委員協議会**

(平成 25 年 1 月 18 日掲載)

### (1) 高砂第三地区の現在の様子

#### ①地区の被災状況と現在の様子について

高砂第三地区民児協エリアは、宮城野区内でも東日本大震災の影響を大きく受けました。ことに太平洋に近い海岸沿いは津波による家屋の流失や浸水被害がありました。罹災した民生委員・児童委員の中には今も仮設住宅で暮らす人、宮城野区以外の区の民間住宅を借りて暮らす人、浸水被害の自宅をようやく修復し終えて暮らす人などが定員の半数以上にのぼります。

家屋の流失した地区の住民の中には、自力で新しい土地を求め家屋を建設し生活を始めている方も見られますが、被災者の多くは、仙台市の復興計画待ちの状況です。仙台市からは集団移転地や復興公営住宅建設地の場所が示され、被災者への希望調査が実施された段階と聞いています。

#### ②被災者の暮らしと直面している課題について

震災前の住宅スペースに比べて、民間借り上げ住宅や応急仮設住宅の手狭さを少なからず感じていると思います。

また被災者は口にこそ出ませんが、将来の復興資金についての心配や不安を抱いている方々も多いと思われます。

震災後、一家族の中でも、罹災地を将来とも危険な地域と判断し、今まで暮らして来た土地を離れて暮らす若年層と、苦勞して住宅を建てた関係上、現在地に愛着がある高齢層が別れ別れに暮らすという状況が多々見られます。自ずと地域では高齢者の一人暮らしや高齢者世帯が増えています。

### (2) 宮城野区高砂第三地区の民生委員・児童委員、民児協の活動

#### ①現在の活動について

現在、宮城野区に 8 か所ある仮設住宅のうち、高砂第三地区民児協で 7 か所担当しています。実際は高砂第一地区に 1 つ、第二地区に 1 つありますが、住民が安心して生活し続けることを第一に考える市の方針もあり、震災前から住民とのつながりがある第三地区民児協がこれまでの担当エリアを超えて活動をしています。定期的に民生委員・児童委員が 2 人一組となって仮設住宅の見守り、訪問活動を行なっています。訪問先の住民からは、「ありがとう」「ご苦勞さま」といった声をかけていただき、訪問した私たちが元気づけられることもあります。

高砂地区社会福祉協議会が「ふれあいいいききサロン」(※)を主催して

おり、民生委員・児童委員は福祉委員とともに集会施設に集まる地域住民のために活動しています。

## ②活動をする上での課題について

実際には本来の活動地域が津波で流失し、担当世帯数が減少、逆に他地区民児協の地域での活動が出てきたということです。また、担当世帯数は減少しているものの、委員の中には震災前までの人間関係に基づき、今どちらに居を構えているものかと心配している方もいます。縮小した担当世帯数だけの委員活動で良いものかとジレンマに陥っている委員もみられます。

たしかに他区居住の委員は、仮設住宅の見守り活動や民児協定例会への出席の大変さはありますが、いまのところ元気に顔を見せてくれています。

仮設住宅のある本来のエリアの担当委員からも「何か手伝うことがあれば言ってちょうだい」と温かい言葉もかけていただいています。

## ③これからの取り組みについて

民生委員の半数以上が被災しており、自らも震災復興を進めなければならない委員もいるなか、今のところ具体的にこういうことに取り組みましょうといえる状況にはありません。ただ、民児協として何かをやっていかなければいけないかねえ、という声が出ていることも事実です。

## ④おわりに

災害が起きたとき、自分に課せられた任務を遂行するのは何より大事ですが、一所懸命やることとともに自分自身を大切にすることも重要だと思います。時には温泉などに行って保養をするなど、時折立ち止まり、自分の心のケアをすること、支援者側も一息入れつつ進むことが肝要と思います。

最後になりましたが、この度の東日本大震災に際しましては、全国の皆さまから手厚いご支援とお見舞いを頂戴いたし、誠にありがとうございました。心より感謝を申し上げます。

## (※) ふれあいいいききサロンについて

ふれあいいいききサロンの開催につきましては、震災前（平成13年度頃）より高砂地区社会福祉協議会の事業として、町内会単位または2つ以上の町内が合同で年に2回ぐらいを目標に実施してきたところでした。震災後、各仮設住宅には被災者の心を癒すため、各種ボランティア団体が入り活動を行っています。仮設住宅の集会所使用予定などとの調整もあり、また高砂地区社協がそれまで行ってきたサロンの開催回数に鑑み、年2回程度を目標にしていますが、実際には委員のほかの予定や各種事情により1回の実施にとどまっています。

## 【平成24年度の開催状況】

### ・参加者

A仮設住宅	75歳以上の高齢者	17名（ほかにスタッフ14名）
B仮設住宅	75歳以上の高齢者	25名（ほかにスタッフ10名）
C仮設住宅	高齢者	7名（ほかにスタッフ5名）
D仮設住宅	75歳以上の高齢者	20名（ほかにスタッフ7名）

※仮設住宅でのサロンにはみなし仮設入居者もお誘いして開催しています。

### ・活動内容

A仮設住宅	大正琴演奏の鑑賞・カラオケなど
B仮設住宅	スタッフによる“スカイツリー音頭”・タオル体操など
C仮設住宅	地域包括支援センター職員指導の軽体操など
D仮設住宅	スタッフの演奏に合わせた合唱など

### ・参加した民生委員・児童委員の声

震災前にお誘いしても出てこなかった人が出てくるようになり嬉しい。

演奏を聴いて心を癒されたと言う人、涙を流す人もいた。

久しぶりに会い、話しの尽きない人もいた。

みなし仮設住宅入居者が喜んでいて。

辛い体験をしてきた皆さんに笑顔になっていただき、支援する側の励みになった。

震災直後に比べれば、笑顔と明るさが増えてきた。

## 東日本大震災発災前からの取り組み

### ～町内会での災害時要援護者支援制度の創設～

高砂第三地区が担当している中野新町町内会では、民生委員・児童委員も加わり災害時要援護者支援制度を平成21年に作りました。主にひとり暮らし高齢者の方や障がい者を対象に、町内会役員と民生委員・児童委員がともに1軒1軒回り、その方の状況を確認したり、近所付き合いのない方については近隣の方に支援者になっていただくようお願いするとともに、要援護者とのあいさつの仲介をしたりしました。町内会の防災訓練では、実際に支援者が要援護者宅の安否確認を行ないました。

東日本大震災発災時、ほとんどの支援者が要援護者宅を回り、安否確認を行ないました。要援護者を自分の車に乗せて避難する支援者も多く見られました。震災を受けて、町内会では要援護者リストの見直しを行なっています。